

東日本大震災津波伝承館と災害科学国際研究所との連携に関する協定締結式を行いました（2020/11/9）

テーマ：包括的連携と相互の協力
場 所：岩手県庁舎3階 第一応接室

2020年11月9日（月）、岩手県庁において、東日本大震災津波伝承館（岩手県）と東北大学災害科学国際研究所との連携に関する協定締結式が行われました。

東日本大震災伝承館と当研究所は、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会の実現に寄与することを目的として、連携と協力に関する協定を締結しました。協定締結式には、伝承館館長を務める達増拓也岩手県知事、および丸谷浩明当研究所副所長（人間・社会対応研究部門 教授）が出席したほか、岩手県からは、大槻英毅復興局局長、熊谷正則伝承館副館長、当研究所からは、柴山明寛准教授（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）、テレビ会議にて今村文彦当研究所所長（災害リスク研究部門 津波工学研究分野 教授）が出席しました。

東日本大震災津波伝承館の概要と当研究所との関係

東日本大震災津波伝承館は、岩手県陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内に位置し、国、県、市が協力して建設した施設です。2019年9月22日（日）に開館し、約1年が経過した2020年8月27日に来館者数20万人を達成しました。岩手県沿岸部を中心とした東日本大震災津波のメカニズムや被災状況、復旧・復興状況、震災遺物などが展示されています。

展示は、南正昭教授（岩手大学）と柴山明寛准教授が中心に全体監修を行い、各展示について、当研究所の山下啓准教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）、平野勝也准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）、マリ エリザベス准教授、ボレー ペンメレンセバスチャン准教授（いずれも同部門 国際研究推進オフィス）、ゲルスタ コリア助教（同部門 災害アーカイブ研究分野）、蝦名裕一准教授（人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野）などが資料提供および展示の監修をしています。



左から達増知事、丸谷副所長、柴山准教授、今村所長（タブレット・テレビ会議）